

寄 書

九州聯合圖書展覽會を觀る

福岡の人

三月二十七日より三日間、佐賀師範學校に於て九州聯合圖書展覽會が開催された。今回は太平洋畫會、白馬會の作家の作品も出品されるとの事であつたので、展覽會の類はあまり觀たことのない私には、之が非常な幸福であつた。

私は二十七日に佐賀師範學校に行つた。小、中學校生徒の作品には一寸と眼を通したばかりで、参考品の室に入つた。第一に私の眼に止つたのは、大下先生の水彩畫、それから眞野、瀧澤、八木、寺田、水野諸先生の畫が列んで居る。之等の作品については、私等の喋々を要するまでもない、が此の田舎漢に痛切に感じた事は、其の作品の何れもが、此の複雑な自然を如何に大膽に觀て、之を如何に大膽に畫いてあつたと云ふ事である。成程、田舎者の筆はイデケてゐる、細かい處ばかりにこそくして大體の調子を過つてゐる。私は此に於て大に得るところがあつた。そして之が大いに私に新しい希望を與へた。

大下先生の作品は唯一點であつた。湖の岸に美しい黄色を彩つた葉の木がある。遠山が紫色に湖の向ふに立つてゐる。眞野先生數點。大部分は花瓶に色々の花の生けてある靜物畫であつた。其他スケッチも二三點見えた。花は相變らず得意なものであつた。其他の諸先生のは皆ワットマン四切のスケッチやマタ

デーで、各平均六七點、スケッチには面白いのが多く、ステデ
ーは益するところが多かつた。

それから、白馬會、太平洋畫會の油繪が貳拾點以上、大作も大分見えた。美術學校出品の日本畫もあつた。私は唯感嘆するのみで、之等の作品に就て言を發するだけの勇氣がなかつた。

私は四五時間會場に立つてゐた。觀覽者も多かつた。其人等の色々の批評も聞いた。そして午後目の光の淡い時に會場を出た。

三越洋畫展覽會を見て

大阪 富岡 洗帆

雨で寫生に行けない日を利用して三越へ行つた。會場は例の店の奥なので、僕等のやうな書生は下足迄預けるのを一寸氣兼ね思ふ。光つた板の間へ泥足の形が付はすまいかとぬき足して上つた。太平洋畫會の出品丈けに水彩畫が多い、それに小豆島の寫生畫があるので錦上更に花だ。油繪水彩と見に行くと、大下先生のがあつた『麓』と、處で僕が「これは『みづゑ』に出て居たよ」と同行のM君とS君に云ふ、二人共『みづゑ』を見て居ないので。外國人が二人觀に來た、早口に何か云つて氣に入つたのが無いのか急ぎ足に行つてしまふ、僕は赤城氏の『午後四時』藤島氏の『銚子海岸』瀧澤氏の『雨後の夕』等の前で、さつき様な事を繰かへした。S君は『みづゑ』を持って來ればよかつたね」と云ふ、「どれが出てるか知らなかつたから」と云つた。